国指定史跡
続日本100名城
No.117

岩櫃山周辺ガイドマップ

真田三代の足跡を辿る

2016年NHK大河ドラマ 真田丸 ゆかりの地　真田氏上州の拠点　岩櫃

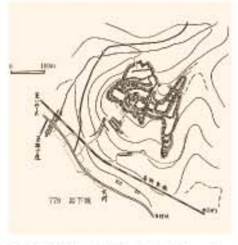
東吾妻町と城跡

東吾妻町には、岩櫃城をはじめ多くの城跡が残っており、築城時期は中世（鎌倉・室町時代）の後期に集中しています。中世という時代は、武士の台頭という封建制の萌芽によってはじまり、その後半は動乱の時代でありました。

吾妻地域は、吾妻氏からはじまり、鎌間氏、斉藤氏、さらに北信地方の土豪・滋野源氏の海野、望月、祢津の系統と深い関係にある真田氏の吾妻・利根の進駐により繁栄し、これにあわせて各所に城が築かれました。

東吾妻町の中世城館跡一覧

当初は信州・滋野氏の一族で当地に移ってきた大戸（浦野）氏の城でした。天正年間には、北条氏と真田氏の攻防戦の舞台となりました。



はじめは斉藤氏の城でした。その後、大野氏が城主となったものの、その重臣・斉藤憲次が大野氏を滅ぼし、岩下城は憲次の家臣・富沢但馬に与えられました。

名称（別称）	所在地	存続期間（推定・伝承）	築・在城者（推定・伝承）
鷹繋城（須賀尾城）	須賀尾	16世紀	（不明）
丸岩城（須賀尾上坂）	須賀尾	16世紀	高橋丹波守丸山勘解由
須賀尾古城	須賀尾	（不明）	須賀尾氏
羽田城 （大柏木城）（芳の城）	大柏木	16世紀	羽田氏　浦野氏
大戸平城	大戸	16世紀	浦野氏
千人窟陣城	大戸	天正11年	真田信幸
大戸城（手子丸城）	大戸	16世紀	浦野氏　北条氏 日向大和入道斎藤定盛
萩生城（境野城）	萩生	16世紀	浦野氏　小林石見
雁ヶ沢の砦	松谷	16世紀	横谷氏
古谷館	郷原	天正10年	真田昌幸
岩下城	岩下	16世紀	齋藤氏　富沢氏
根小屋城	三島	16世紀	江見氏　浦野下野氏
岩櫃城	原町	16世紀	斎藤憲広　真田氏　海野幸光
稲荷城	原町	（不明）	吾妻氏か
内出城	川戸	（不明）	秋間氏
城峯城	川戸	（不明）	（不明）
小田沢の砦	岩井	天正10年	塩谷将監ら
植栗城	植栗	16世紀	（不明）
中峯城	植栗	16世紀	（不明）
山の固屋城	川戸	16世紀	（不明）
先陣峠の砦	岩井	（不明）	（不明）
荒巻屋敷	新巻	16世紀	荒牧隆房
稲城	奥田	（不明）	（不明）
奥田の砦	（不明）	（不明）	（不明）
白狐城（金原城）	五町田	（不明）	（金原左衛門）
寄居城（箱島城）	箱島	（不明）	（寄居勘解由）
柏原城（根小屋城）	岡崎	16世紀	吾妻地衆　金子美濃守

東吾妻町と真田三代

真田氏は、室町幕府の勢力が衰えてきた戦乱の世において、信濃・上州を中心に活躍した武門です。天下取りを目指す戦国武将が入り乱れる中、真田幸隆（幸綱）※父、真田昌幸※子、真田幸村（信繁）※孫は「真田三代」といわれ、幾多の戦いに身を投じました。
そして、真田幸隆が攻略した岩櫃城は、真田氏の吾妻郡統治の中心として歴史の表舞台に立ち、また吾妻の地は、徳川家康の一国一城令が出されるまで、真田氏と深く結びついていました。

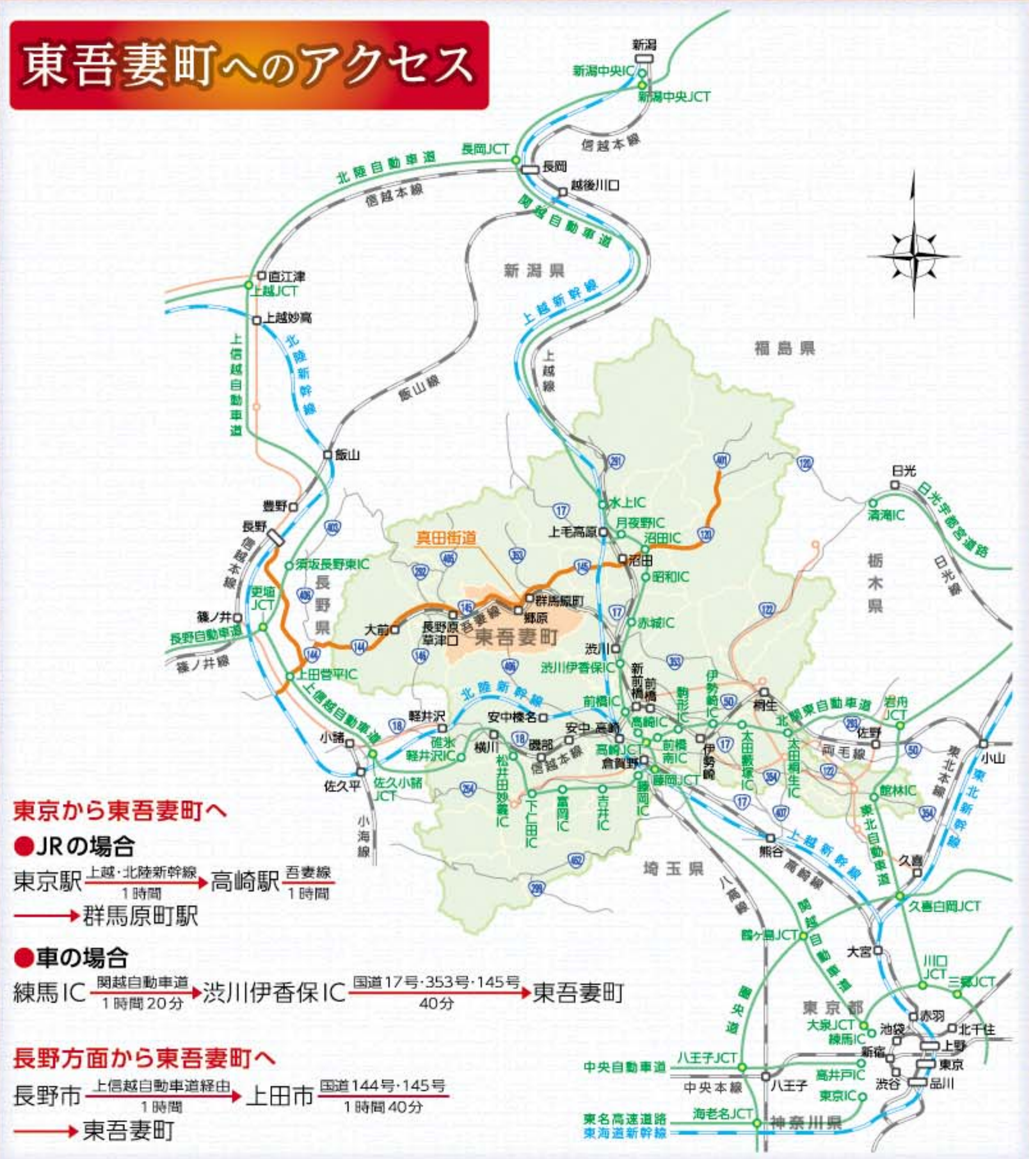
真田三代と吾妻の歴史

この年表は、真田三代の軌跡と、同時期の吾妻の歴史をまとめたものです。

青字…真田幸隆（幸綱）
緑字…真田昌幸
赤字…真田幸村（信繁）
黒字…吾妻地域及び歴史上の主要な事柄

和暦	西暦	主な出来事
永正10	一五一三	幸隆、誕生
天文6	一五三七	幸隆の長男・信綱誕生
天文10	一五四一	5月、幸隆、海野平合戦で武田・諏訪・村上の連合軍に敗北し、上州へ逃げ落ちる。箕輪城主・長野業政のもとへ亡命
天文11	一五四二	幸隆の二男・昌輝誕生
天文15	一五四六	幸隆、このころ武田信玄に仕える※天文12年に仕えた説あり
天文16	一五四七	幸隆の三男・昌幸誕生（幸隆35歳）※天文14年生まれの説あり
天文17	一五四八	2月、幸隆、上田原合戦に出陣
		2月、武田信玄、村上義清に敗北
天文19	一五五〇	10月、武田信玄、砥石城の攻防戦で再び村上義清に敗北（砥石崩れ）
天文20	一五五一	5月、幸隆、砥石城を攻略。本領を回復する
天文22	一五五三	8月、幸隆、第一次川中島合戦に出陣
		昌幸、武田家への人質として甲府に赴く。以後、武田信玄の奥近習衆となって薫陶を受ける（7歳）
		川中島合戦が開戦。永禄7年まで断続的に第五次まで発生
永禄2	一五五九	幸隆、出家し、名を一徳斎とする（47歳）
		10月、岩櫃の領民が抗議のために小野子庄へ逃散
		上杉謙信が沼田城に入城
永禄4	一五六一	5月、幸隆、西上野に出陣
		8月、幸隆、岩櫃城を攻める（49歳）
		9月、昌幸、第四次川中島合戦にて初陣を飾る（15歳）
永禄6	一五六三	5月、武田信玄、鎌原氏に兵糧を送り岩櫃を治める斎藤憲広に抗う
		9月、長野原合戦
		10月、岩櫃城が落城。幸隆、吾妻郡守護代となる。斎藤氏は越後へ敗走
		11月、羽尾氏が滅亡
永禄9	一五六六	幸隆、上州箕輪城を陥落させ、長野氏が滅亡
		昌幸の長男・信幸（信之）誕生
永禄10	一五六七	幸隆、上州白井城を陥落させ、箕輪城に入城
		昌幸の二男・幸村（信繁）誕生※異説あり
永禄12	一五六九	昌幸、三増峠の戦いで北条氏への一番槍の手柄を立てる
元亀元	一五七〇	幸隆、この年までに隠居。家督を長男・信綱に譲る（58歳）
		昌幸、駿河の花沢城を攻めて活躍する
元亀2	一五七一	武田信玄、岩櫃城へ入城。勢力範囲を不動峠まで拡大
元亀3	一五七二	12月、昌幸、三方ヶ原合戦に出陣。敵方の徳川家康は大敗
元亀4	一五七三	幸隆、上杉軍と上州にて戦う
		4月、武田信玄、病没（享年53歳）。嫡男の武田勝頼が家督を相続
		室町幕府が滅亡
天正2	一五七四	5月、幸隆、病気により逝去（享年62歳）
天正3	一五七五	5月、昌幸、長篠合戦に出陣。長兄・信綱、次兄・昌輝が戦死。昌幸、養子となっていた武藤家から真田家に復し、家督を相続（29歳）
天正6	一五七八	昌幸、武田勝頼から沼田城の攻略を命令される
天正7	一五七九	昌幸、上州の戦いで活躍し、厩橋城、八崎城などを調略。沼田城の孤立に成功
天正8	一五八〇	昌幸、このころから安房守を名乗る
		昌幸、2月に名胡桃城、3月に小川城を調略によって切り崩す
		4月、尻高氏と中山氏が昌幸に敗北
		6月、昌幸、沼田城を無血開城させる
		8月、昌幸、猿ヶ京城を陥落する
		1月、羽田氏が真田氏から攻撃され、大柏木城が落城
		8月、尻高義隆が自決し、尻高氏が滅亡
		12月、昌幸の家臣たちが中之条古城、横尾八幡城を攻略
天正9	一五八一	昌幸、沼田城攻略に赴いた沼田景義を謀殺
		昌幸、新府城の普請奉行となる
		11月、昌幸、沼田城代の海野氏を謀殺
		3月、沼田氏が滅亡
天正10	一五八二	2月、昌幸、武田勝頼を岩櫃城へ迎える準備をする（潜龍院跡）
		本能寺の変以降、旧武田領をめぐる天正壬午の乱が勃発。昌幸、北条氏直、徳川家康に相次いで従属する
		3月、武田勝頼が甲斐の天目山にて自刃。武田氏が滅亡
		6月、本能寺の変で織田信長、戦死（享年49歳）
		9月、北条氏が吾妻郡に侵入し、大戸城が落城
		10月、徳川氏と北条氏の盟約が成立し、天正壬午の乱が終結
天正11	一五八三	昌幸、上田城の築城を始める（37歳）
天正12	一五八四	昌幸、徳川家康から沼田城を北条氏政へ引き渡すように求められるが拒否。徳川氏から離反し、上杉景勝につく。北条氏、沼田城を攻撃
天正13	一五八五	7月、昌幸、上杉景勝、豊臣秀吉に援助を求める
		8月、昌幸、第一次上田合戦にて徳川軍を打破
		9月、昌幸、沼田城で北条軍を撃退
		10月、昌幸、豊臣秀吉に臣従
		幸村、人質として上杉家に預けられる（19歳）
天正14	一五八六	幸村、このころに元服。源次郎信繁と名乗る（20歳）
		5月、北条氏が沼田城を攻撃するが敗退
		7月、徳川家康が上田への再遠征を行うものの中止する
		7月、中之条河原宿の移転開始
		8月、真田氏が中山城を奪回
		豊臣秀吉が太政大臣になる
天正15	一五八七	昌幸、徳川家康の与力大名となる
天正16	一五八八	5月、豊臣秀吉、北条氏政へ上京を促すが、沼田問題の解決を条件として拒否
天正17	一五八九	7月、昌幸、豊臣秀吉の命により北条氏に沼田城を引き渡す
		11月、真田氏、北条氏家臣・猪股邦憲に名胡桃城を奪われる
		12月、北条氏が吾妻郡に進軍（吾妻合戦）。豊臣秀吉、北条氏の討伐を宣言する
天正18	一五九〇	3月、昌幸、豊臣秀吉の小田原城攻略に出陣。上野・武蔵攻略による活躍で豊臣秀吉から沼田城の所有を認められる
		幸村、父・昌幸、兄・信幸とともに小田原の陣に参戦（24歳）※幸村初陣との説あり
		2月、中之条北条合戦が勃発
		7月、小田原城が落城し、北条氏が滅亡
		8月、真田信幸が沼田城の初代城主となる。諸社に寄進し、岩櫃城を除く吾妻郡の城と砦を破却
		8月、徳川家康が江戸城に入城
		12月、真田信幸が知行宛行状を出す
		上下尻高国境紛争
文禄元	一五九二	幸村、このころ大谷吉継の娘を娶る（26歳）
		東吾妻の応永寺が炎上
文禄2	一五九三	真田信幸、従五位伊豆守に叙任
		快宵恵鶚、応永寺の住職に就任
文禄3	一五九四	幸村、従五位下左衛門佐に任命される。豊臣姓を許される（28歳）
		矢沢頼綱、中之条の林昌寺を再興
慶長元	一五九六	真田信幸、吾妻御殿を創建
慶長2	一五九七	中之条長岡宿で初の絹市場が開かれる
		矢沢頼綱、死去
慶長3	一五九八	8月、豊臣秀吉、病没（享年63歳）
慶長4	一五九九	桐沢の善導寺が炎上
慶長5	一六〇〇	9月、関ヶ原合戦が勃発。昌幸と幸村、第二次上田合戦にて上田城の攻略を担う徳川秀忠軍を破る。西軍の敗北により、昌幸と幸村は高野山・九度山へ配流される（昌幸54歳、幸村34歳）
		9月、関ヶ原合戦にあたり、松平定勝が岩櫃城の守護を担う
		徳川氏の家臣（上田七本槍、牧野康成ら）が岩櫃城に幽閉される
慶長6	一六〇一	幸村の嫡男・大助（幸昌）誕生（35歳）
		3月、原町の滝峨山不動堂が再建
慶長12	一六〇七	沼田城の天守閣造営※慶長2年の説あり
慶長16	一六一一	6月、昌幸、九度山にて逝去（享年65歳）
慶長17	一六一二	幸村、入道して好白を名乗る。幸村の二男・大八誕生（46歳）
慶長19	一六一四	幸村、大坂城へ入城。10月、大坂冬の陣が始まる。真田丸を築いて徳川軍を撃退するなど活躍（48歳）
		10月、真田信幸、吾妻郡に郷村改を出す
		秋、岩櫃城下平川戸宿で市が開かれ、大いに賑わう。原の新町で屋敷割検地が行われる
慶長20	一六一五	4月、大坂夏の陣勃発。幸村、5月の道明寺合戦にて伊達軍を撃退。翌日も徳川家康を追い詰めるが討死（享年49歳）
		2月、岩櫃城の破却が始まる。善導寺を原町滝沢へ移す。原の新町の町割を施行
		5月、大坂夏の陣で吾妻武士が奮闘する。豊臣氏が滅亡
		6月、徳川家康、一国一城令を発布
元和2	一六一六	3月、岩櫃城の破却が完了
		4月、徳川家康、死去（享年75歳）
		原の新町が開き、原町陣屋（吾妻郡奉行所）が置かれる
		真田信幸、上田城に移る
		出浦対馬守、原町に専念寺を創建
元和3	一六一七	10月、顕徳寺に出浦対馬守妻妾の墓が建つ
元和8	一六二二	10月、真田信幸、松代藩（十万石）に国替えされる
元和9	一六二三	8月、出浦対馬守、死去（享年78歳）
明暦4	一六五八	10月、真田信幸、死去（享年93歳）。以後も真田家は幕末まで大名として存続

東吾妻町へのアクセス



東京から東吾妻町へ

●JRの場合
東京駅 —上越・北陸新幹線 1時間→ 高崎駅 —吾妻線 1時間→ 群馬原町駅

●車の場合
練馬IC —関越自動車道 1時間20分→ 渋川伊香保IC —国道17号・353号・145号 40分→ 東吾妻町

長野方面から東吾妻町へ

長野市 —上信越自動車道経由 1時間→ 上田市 —国道144号・145号 1時間40分→ 東吾妻町

東吾妻町観光情報・岩櫃関連情報
http://www.iwabitsu-sanadamaru.com/

NHK大河ドラマ「真田丸」
岩櫃 IWABITSU
真田氏上州の拠点 岩櫃城下東吾妻

東吾妻町役場
〒377-0892
群馬県吾妻郡東吾妻町大字原町 1046
TEL:0279-68-2111　FAX:0279-68-4900
https://www.town.higashiagatsuma.gunma.jp/

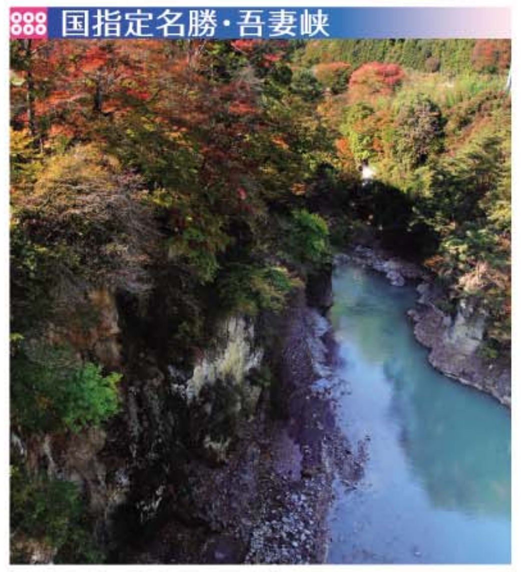
（一社）東吾妻町観光協会
〒377-0801
群馬県吾妻郡東吾妻町大字原町 627-2
TEL:0279-70-2110　FAX:0279-25-7135
http://www.tohgoku.or.jp/~aysk/

2021年3月発行

東吾妻町内の観光スポット

吾妻川を彩る美しい渓谷をはじめ、自然と緑、清らかな水に包まれた見どころがいっぱい！

国指定名勝・吾妻峡



吾妻峡は、吾妻川に架かるふれあい大橋から新蓬萊までの約2.5kmにわたる渓谷です。大昔に火山が噴き出した溶岩を、川の水が深く侵食してできたものと考えられており、昭和10年（1935）に国の名勝に指定されました。新緑や紅葉の名所であり、そばだつ懸崖や奇石、滝、そして木々が織り成す美しい風景から「関東の耶馬溪」ともいわれています。

■吾妻峡十勝■
弁天島　若葉台
屏風岩
布袋岩
八丁暗がり
竜頭岩　竜尾岩
紅葉台　新蓬莱
白糸の滝

岩井桜並木と水仙畑

岩井地区の親水公園脇の畑には約30万本のラッパ水仙が咲き、側には約1kmにも及ぶ桜並木が続いています。見頃は4月上旬から中旬。

箱島湧水（はこしまゆうすい）

箱島不動尊のお堂脇にある樹齢約400年の大杉の根元から湧き出る湧水は、環境省が昭和60年（1985）に選定した「名水百選」のひとつです。湧出量は豊富な日量約3万トン。湧水の流れは鳴沢川となって町内の飲料水、農業用水、養鱒場用水として利用されています。

道の駅 あがつま峡

http://agatsumakyo.jp/

「名勝・吾妻峡」の玄関口に位置し、平成26年（2014）10月にグランドオープンした道の駅です。24時間利用可能な駐車場やトイレのほか、農産物直売所やドッグラン、足湯、日帰り温泉などがあります。

所在地：群馬県吾妻郡東吾妻町大字三島6441
定休日：無休（農産物直売所 てんぐ）
　　　　毎月第2火曜日（吾妻峡温泉 天狗の湯）
電話番号：0279-67-3193

東吾妻町内の温泉スポット

吾妻川と温川沿いを中心に、さまざまな温泉施設が揃っています。宿泊や日帰り入浴で心と身体をリフレッシュ！

日帰り施設　日帰りOK　このマークの施設は、宿泊しなくても温泉等が利用できます。岩櫃山散策の帰りにぜひお立ち寄りください。

吾妻峡温泉 天狗の湯

日帰り施設
http://agatsumakyo.jp/

道の駅「あがつま峡」にある源泉かけ流しの温泉です。大浴場にある露天風呂、内湯、寝湯に加えて、貸切の露天風呂と内風呂も用意されています。

サービス：日帰り入浴、軽食（道の駅内の農産物直売所）
電話番号：0279-67-2683

あづま温泉 桔梗館

日帰り施設
http://www.kikyoukan.com/

渋川寄りの吾妻川沿いにある天然温泉で、源泉は58度、露天風呂でも43度という熱めの温度が特徴です。露天風呂からは奇勝「岩井洞」が望めます。

サービス：日帰り入浴、食事
電話番号：0279-59-3533

吾妻温泉 根古屋乃湯

日帰り施設

渋川市との境にある温泉です。高台にある岩造りの露天風呂からは眼下に吾妻川、遠くに赤城山が望めます。内湯と休憩室、食堂もあります。

サービス：日帰り入浴、食事
電話番号：0279-59-3361

川中温泉 かど半旅館

http://www.kawanaka-kadohan.com/

源泉かけ流しの温泉旅館です。温泉は旅館前を流れる雁ケ沢川の川底から自然湧出しており、日本三大美人の湯といわれています。

サービス：宿泊
電話番号：0279-67-3314

松の湯温泉 松渓館

八ツ場バイパスから細道に入った雁ケ沢川沿いにある一軒宿の温泉です。ぬる湯の源泉は、宿の裏にある崖から湧き出ています。

サービス：宿泊
電話番号：0279-67-3210

鳩ノ湯温泉 三鳩楼

https://sankyuro.com/

東吾妻町の西側、温川と草津街道沿いにある温泉宿で、内湯と半露天の湯船があります。その昔、この温泉で3羽の鳩が傷を癒したといわれています。

サービス：宿泊
電話番号：0279-69-2421

薬師温泉 旅籠

日帰りOK
http://www.yakushi-hatago.co.jp/

かやぶきの家屋が立ち並ぶ、浅間隠山の温泉旅館です。目の前に温川が広がる露天風呂と内湯のほか、薬草を用いた薬湯もあります。

サービス：宿泊、日帰り入浴
電話番号：0279-69-2422

岩櫃山周辺のお土産とお食事

裏面の地図に掲載しているお土産処とお食事処です。営業時間等は各店舗にお問い合わせください

お土産処

藤井屋政右衛門

和菓子、ケーキ、おみやげ

所在地：原町5048
電話番号：0279-68-5315

丸源清月堂

和菓子、花まめ

所在地：原町203-9
電話番号：0279-68-2933

信濃屋

洋菓子、パン

所在地：原町631
電話番号：0279-68-2403

お食事処

店舗名	所在地	電話番号	お料理
あおぞら原町店	原町5059	0279-68-4855	焼肉
とんかつ梅乃家	原町984-1	0279-68-2385	とんかつ（一般食堂）
おおぎやラーメン吾妻原町店	原町1096-1	0279-68-5557	ラーメン
ケンタッキーフライドチキン原町店	原町761-2	0279-70-2105	ファーストフード
会席あさひ	原町5052	0279-68-0077	会席料理
さかえ鮨	原町5053	0279-68-2910	寿司
あがつま農協焼肉燦	原町5055	0279-68-0033	焼肉
らーめんみそ膳原町店	原町716-1	0279-68-5568	ラーメン
やまと屋本店	原町1099-1	0279-68-2992	和食料理全般、そば、うどん、居酒屋
いな穂	原町1263-12	0279-68-0056	そば、うどん
登利平原町店	原町5272	0279-70-2200	鳥料理、焼鳥、弁当
コニファーいわびつ	原町4399	0279-68-5338	和会席膳
おおつき食堂	原町1562	0279-68-3125	定食、焼肉、ラーメン
火群庵原町店	原町1004-1	0279-68-5505	焼きまんじゅう
志げ乃家	川戸1466-1	0279-68-3894	定食（一般食堂）
タイレストラン アユタヤ	原町624-4	0279-26-2997	タイ料理
台湾料理 福満軒 原町店	原町5253	0279-25-8678	台湾料理
あがタコ	原町721-1	080-3613-8309	たこ焼き